

令和3年第6回(12月)市議会定例会本会議報告について

教育総務課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>【川嶋敬信議員】</p> <p>●屋代南高校の提案・要望書について</p> <p>・屋代南高校を発展させる会が県教委に提出した提案要望について、市民に分かりやすい説明を。</p>	<p>【教育長】</p> <p>県教委が主催した「旧第4通学区高校の将来像を考える地域の協議会」では、8回に渡り活発な意見交換を行い、旧第4通学区には魅力ある学びの場として、一定規模の総合技術高校の設置を要望することで一致した。</p> <p>また、話し合いの過程で、市長とともに、交通の便が良い旧第4通学区に多部制・単位制高校の設置、生徒にとって魅力ある情報や福祉などが学べる学科を設けてほしいこと等を強く要望してきまして、地域の協議会の「意見・提案書」の中に、私と市長の発言内容が、文言として盛り込まれることができた。</p> <p>ご指摘の屋代南高校を発展させる会の「提案・要望書」については、単なる要望書とならないために、地域の協議会が県教育委員会教育長に提出しました「意見・提案書」の要点に基づいて作成したものである。</p> <p>屋代南高校を発展させる会が提出した「提案」の主な内容であります。旧第4通学区に設置する総合技術高校には、情報科と福祉科を創設し、現在の屋代南高校のライフデザイン科と併設することにより、機能的で魅力的な高校になること、更には、多様な生徒の学びの場を保障する多部制・単位制課程を併設することなどである。</p> <p>また、「要望」の主な内容としては、JRやしなの鉄道線の駅に近い高校を活用するとともに、千曲市の人口規模及び中学生徒数に応じた高校は是非必要なことから、高校2校の設置は当然であること。加えて、屋代南高校は、地元企業との連携が密で地域からの信頼も厚いことから、存続を強く要望する。という内容になっている。</p>

【再質問】

・「提案」のツインキャンパスの配置についてわかりやすく説明願いたい。

・「意見・提案書」を提出した際に、校名が変わっても良いと発言した主旨は。

・できるだけ丁寧な説明と情報を早くいただきたい。

【聖澤多貴雄議員】

●通学路危険箇所調査について
・調査方法、調査結果、今後の対策についての報告を。

ひとつの案として、情報・福祉・ライフデザインなどの学科が多くなるので、1校では間に合わない。よって、屋代南高校もキャンパスとして利用するという事で提案した。

【市長】

屋代のあの場所に高校があるということが、子どもにとっても千曲市にとっても重要であるという認識。屋代南高校が残ればベストだが、名前にこだわるあまり高校を無くさないようにしたい。

【教育部長】

今年の6月に、千葉県八街市で下校児童がトラックにはねられ死傷した事故を受け、市では国からの要請により、9月16日と21日の両日にわたり、学校、建設事務所、警察署や地元区とともに通学路の合同点検を実施した。

国から示された今回の点検箇所であるが、①見通しの良い道路や幹線道路の抜け道になっている道路など車の速度が上がりやすい箇所や大型車の進入が多い箇所、②過去に事故に至らなくてもヒヤリハットの事例があった箇所、③保護者や見守り活動者、地域住民等から市町村への改善要請があった箇所などである。

市教育委員会では、これまでも学校や道路管理者、警察署などとの関係機関による合同点検を積み重ね、危険箇所の対策を行ってきたこと、また、今回の点検では、全ての通学路に対する一斉の再点検を求められていないことから、点検する箇所については各小学校ごとに原則優先的に対策を講ずる箇所1か所を選定することとした。

点検の結果、市が管理し、用地取得を伴わない箇所については、今年度中にカラー舗装や路面標示などの対策を講ずることで、通行車両の速度抑制や歩行者の視

<p>・通学路にトイレがあると良い。地元では、市に土地も寄付しているのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>●「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果について</p> <p>・調査結果の内容やこれからの対策は。</p> <p>・英語学習に対する意識調査のポイントが高かったことや教科担任制に関する分析は。</p>	<p>認性向上を図っていく。このほかの危険箇所の改善については、「通学路交通安全プログラム」に組み入れ、建設事務所や警察など関係機関と連携しながら、児童生徒の安全確保が早期に図れるよう努めていく。</p> <p>また、ソフト対策としては、引き続き、各学校で願ひしている見守り隊の配置と子どもたちへの安全教育を行う。</p> <p>なお、市が実施する対策に要する経費については、今議会に補正予算案として上程した。</p> <p>【教育長】</p> <p>既に市全体の調査結果については、市報11月号等で公表させていただいたが、この調査は今年の5月に小学校6年生と中学校3年生を対象として実施した。</p> <p>「教科に関する調査」の結果では、小学校6年生の国語と算数、中学校3年生の国語と数学は、すべて「全国・長野県と同程度」という平均正答率であった。調査結果を踏まえ、学校ごとに良かった点や課題等进行分析し、授業の充実や改善に取り組んでいる。</p> <p>「英語の勉強は好きですか」という質問に、小学校6年生では肯定的な回答をした割合が全国よりもたいへん高い結果となった。</p> <p>これは、令和2年度から、小学校5・6年生では、外国語が教科として位置づけられたことから、現在では、市内の小学校に、県費による英語専科教諭3名、また、外国語指導助手（ALT）3名を配置している。</p> <p>こうした人的配置の充実により、児童生徒の外国語学習に対する意欲の向上が図られたのではないかと考えている。</p>
--	---

・千曲市の特色ある教育は。

●屋代南高校再編・存続問題について

なお、教科担任制については、国の動向を注視していく。

私としては、市の教育行政として、一つ目に GIGA スクール構想の充実、二つ目にふるさと学習の充実、三つ目に不登校児童生徒対策と切れ目のない支援を 3 本柱として、千曲市らしい教育が展開されるよう進めていく。

【教育長】

まず、ツインキャンパスに変えた根拠はどこにあるかについて。県教委が主催した「旧第 4 通学区高校の将来像を考える地域の協議会」の「意見・提案書」では、旧第 4 通学区に総合技術高校の設置と多部制・単位制高校も交通の便の良い旧第 4 通学区への設置を要望しており、その「意見・提案書」の要点に沿った形で、屋代南高校を発展させる会で提出した「提案・要望書」は作成されている。

「旧第 4 通学区の高校の将来像を考える地域の協議会」では、市長とともに、交通の便が良い旧第 4 通学区に、多部制・単位制高校の設置を強く要望してきたので、屋代南高校を発展させる会の要望書にも「多様な生徒の学びの場を保障する多部制・単位制課程」を設置するよう要望している。

次に、今後、県教委からの窓口、判断等司令塔は誰が責任を担っていくかについて。まず、窓口については、県教育委員会の判断だと思うが、市教育委員会が窓口として事務取扱を行うことは想定している。また、判断等司令塔については、県立高校の関係なので、私ども市教育委員会が先頭に立って対応していくことはないかと思う。

【再質問】

・私自身は、司令塔は市長ではないかと認識している。フルスペックとは、どこまでのものを求めているのか。

【市長】

達成率について問われていると思うが、最終目標であるという認識。千曲市 5 万 9 千人規模の人口ならば、高校 2 校は設置していただきたい。そしてあの場所に高校があることが重要であると認識している。

・フルスペックなタブ制・単位制高校により普通科が生まれる。将来のみならず未来永劫再編にさらされることはなくなると考える。

【飯島孝議員】

●スマホやゲームとどうつき合うかについて

①現在、実態をどうつかんでいるか。

②学校としてどのように対応していくか。

③何かアクションを起こしているか、起こすことができないか。

【中村恒彦議員】

●ICT教育について

・デジタル教科書やソフトウェアの選定とその予算について

【教育長】

毎年、市校長会・GIGA スクール推進委員会において、小学3年生以上の全児童生徒を対象に「メディアアンケート」を実施している。その中で、スマホ・ゲーム・タブレット等の使用状況について把握をしている。

学校では「メディアアンケート」の結果をもとに、児童生徒に適切な利用の仕方について指導を行っている。また保護者の皆様には、学校だより等を通じて、実態を理解いただくとともに、子どもと一緒に適切な利用について考えていただくようお願いをしている。

学校では「1人1台端末の活用」を進めると同時に、正しい利用の仕方や「情報モラル」についての指導を進めている。

また、各学校ではPTAとも連携し、電子メディア機器との正しい向き合い方について引き続き研修を行っていく。

言うまでもなく、これからの社会は、益々高度な情報化へと進んでいく。子どもたちが、その中で正しく電子メディア機器と向き合い、適切に情報を理解し、有効に情報を活用していけるよう指導を進めていく。

【教育長】

現在使用している教科書の出版会社のものを選定している。

次に、児童生徒が利用する1人1台端末で使用する

<p>・今こそ、人と人が交わり、その中で生き抜く力を伸ばす教育が必要であると考えられている</p> <p>・高度な読解力を持ち、人間らしい柔軟な判断力のある人材の育成に努めるべきと考えることについて</p> <p>●図書カードの配布を ・読書傾向の移り変わりについて</p>	<p>ソフトウェアについては、市内小中学校、信州大学の先生方の意見や助言をいただきながら選定を行っている。</p> <p>予算については、ライセンス購入費として、指導者用のデジタル教科書が年間約 300 万円、ソフトウェアが年間約 1,280 万円である。</p> <p>また、「教育予算が圧迫されていないか」とのお尋ねであるが、児童生徒の学習教材として必要な経費と考えているので、他の教育予算に影響を及ぼしているとの認識はない。</p> <p>これまでも、学習指導要領に基づき、生きる力を育む教育を実践しているところである。1人1台端末を活用することにより、児童生徒一人ひとりの個別の習熟の程度に応じた個別最適な学習やグループ内で複数の意見・考えを共有し、話し合いを通じて思考を深めながらの協働の学びを行うことができるようになってきている。子どもの情報活用能力は高く、先生方も努力している。</p> <p>以上から、議員ご質問の「人と人が交わり、その中で生き抜く力を伸ばす教育」は、充実していくものと考えている。</p> <p>「高度な読解力を持ち、人間らしい柔軟な判断力のある人材の育成に努めるべき」との議員の考えは、大切な視点であると思う。</p> <p>一方で、予測困難と言われるこれからの社会を、子どもたちが生き抜くためには、まさに、情報活用能力を高めることが、極めて重要であると考えている。</p> <p>従って、これからは、これまで培ってきた教育実践と ICT 教育のベストミックスにより、教育の質が向上され、議員がおっしゃるような人材の育成につながるものと考えている。</p> <p>【教育部長】 学校図書館については、10年以上前の図書館利用状況のデータはないが、ここ10年間の1人あたりの年間貸出冊数を調べてみた限り、令和2年度を除いては横</p>
---	---

●学校に配られた抗原簡易キットの扱いについて

ばいの状況であった。

なお、参考ではあるが、市立図書館については、児童書の年間貸出冊数について、平成16年度から令和2年度までのデータがある。

平成16年度の児童書貸出数は116,125冊、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため通常の図書館運営ができない時期もあったが、児童書貸出数は100,699冊であった。

ちなみに、令和元年度は、116,265冊である。

【教育部長】

千曲市の小中学校では10月8日付で県教育委員会から発出された「幼稚園、小学校及び中学校等における抗原簡易キットの使用について（通知）」に基づき、留意事項に沿って、抗原簡易キットによる検査体制の構築を進めている。

既に、学校での検査場所及び検査立会人の選定、市教育委員会から学校医への協力依頼をしており、現在では、児童生徒の保護者に対し、児童生徒自身が抗原簡易キットに検査するための「同意書」を配布する段階である。

児童生徒自身による抗原簡易キットを使用する状況は限定的であると考えており、学校現場への一定の負担も承知しているが、児童生徒の安全・安心を第一と考えた末の判断である。

また、学校に配布してある抗原簡易キットの使用期限が令和4年1月末であることから、市教育委員会としては、必要最小限の抗原簡易キットを調達し、当面は、抗原簡易キットによる検査が実施できる体制を整えていく。

【田中秀樹議員】

●いのちの教育について

・いのちの教育（性に関する教育）について、千曲市の学校ではどのように行われているか。

【教育部長】

学習指導要領に基づき、児童生徒の発達段階に応じて、性を正しく理解し、適切な意思決定や行動選択がとれるようにすることを目的に実施されており、体育科、保健体育科はもとより特別の教科 道徳等をはじめとする各教科、特別活動・総合的な学習の時間等、学校教

育活動全体を通して指導している。その中で、学校によっては、保健師や助産師、また妊婦の方から直接話を聞き、出産やいのちについて学ぶ学習も行われている。

現在、社会では様々な性に関する情報が氾濫しています。そしてインターネットの普及により、その情報が容易に手に入る時代となっている。そのような中で、子どもたちが豊かな人間性を育ていけるよう、いのちの教育(性に関する指導)も、全学校教育活動の中で、表面的な指導で終わることのないよう指導を進めていく。

【再質問】

・いのちの教育で最も伝えたいことは。

●問題の重層化への対応について

・重複した問題を抱える家庭が少なからずあることを確認しているか。

・そのような家庭に対して、教育行政と福祉行政が連携して一元的に対応できているか。

【再質問】

・一元的に対応しているということだが、どこかの窓口で相談に行けば、教育行政、福祉行政の適切な窓口につながるという認識で良いか。

【教育長】

いのちの大切さ。自分の命、友達の命すべての命の大切さや尊さ。自分を大切にすること、友達を大切にすることそれがすべて命に関係してくる。いのちのバトンを大切に。いじめのない学校ができれば、命を大切に社会に繋がっていくものと考え。

複合的な課題を抱える家庭があることは、学校はもとより教育行政、福祉行政の担当部署においては、十分に認識をしている。

市教育委員会では、県よりスクールソーシャルワーカーを派遣いただき、市内小中学校の巡回支援や庁内関係部署と連携して、児童生徒とその家庭に関わる相談支援を行っている。また、このスクールソーシャルワーカーは、千曲市要保護児童対策地域協議会の構成員として、関係機関と状況共有を図りながら、一元的に対応している。

市教育委員会では、教育、福祉、保健などの庁内関係部署や地域の関係機関で構成する千曲市相談支援関係者連絡会議を設置し、定期的な連絡会などの開催により、支援を必要とする家庭の状況把握、情報交換などを行い一貫した相談支援を行っている。

【滝沢清人議員】

●DXアクションプランの展開について

・合理的配慮が必要な児童生徒に対するオンライン学習教材を活用した個別最適な支援について

【再質問】

・教育現場のDXとして、デジタル人材が必要ではないか。

・民間の導入についてどう考えているか。

【教育部長】

現在、市内の各学校においては、今年度配置した1人1台端末を活用して、積極的に学習支援を進めている。

合理的配慮が必要な児童生徒に対する具体例をあげると、保健室や中間教室で学習をしている児童生徒に対して、教育支援コンテンツを利用して学習を進めたり、教室での授業を、別の教室から見るができるようにしている。

また、入院をしている児童生徒にも端末を病院内に持ち込み、授業に参加できる試みをしている学校もある。

学習以外の活用では、長期欠席をしている児童生徒の自宅の端末に、担任からメッセージを送ったり、今後の予定をやりとりしたりするなど幅広い活用を模索しております。

今後も、ICTの活用については、不登校対策委員会や千曲市校長会、教頭会などで情報を共有するとともに、各学校においては、個々に応じた学習支援に努め、情報活用能力を育んでいく。

県教委からの現役指導主事派遣、2名の情報技術支援員、GIGAスクール推進委員会などにより対応している。議員各位にも機会があれば学校での1人1台端末の活用例を見学いただければと考えている。指導主事からは、千曲市のGIGAスクール構想の進捗状況は、県内でも先行していると評価してもらっている。

【教育長】

教材のことであれば、ソフトはロイロノートで学習を進めている。後れをとっていることはない。

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>一般質問</p> <p>【中村恒彦議員】 「図書カードの配布を」について</p> <p>2つ目の質問として</p> <p>市では、ブックスタート事業やセカンドブック事業を通して親子の読書活動を支援しているが、学校図書館よりも市立図書館の方が一度に借りられる冊数が多く、親子で出かけて一緒に本を選ぶことができる。</p> <p>市立図書館利用カードの普及率はどのくらいか。</p> <p>また、さらなる登録者増加のために、利用カードを各家庭に配布するなどの普及拡大をしたらどうか。</p> <p>【再質問】 学校を通じて絵本を配布するセカンドブック事業の際にも、利用カード申込書の配布を実施するということがよいか。</p>	<p>【教育部長】</p> <p>市立図書館の利用カード普及状況については、令和3年3月現在の登録者が13,473人で人口比では22.93%である。</p> <p>多機能型端末等での読書やインターネット上での文字情報の取得なども可能となり時代は変わったが、紙媒体の良さは変わらずにあるので、そうした事業を推進している。</p> <p>若年者の読書離れが言われているが、若年人口の減少が続く中でも、児童書の貸出し数は横ばいであることから、一定の成果が残せていると考えている。</p> <p>登録者数の増加については、ブックスタート事業の絵本プレゼント会の際に、参加者の利用カード交付手続きを行っているほか、他の図書館イベントでも利用者カード申込書を配布し利用促進につなげていく。</p> <p>有効な手段であり、セカンドブック事業の際に実施したい。</p>

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>◎一般質問(個人質問)</p> <p>【金井文彦議員】</p> <p>「ことぶきアリーナ千曲の「稼げる化」は進んでいるか」について</p> <p>所信表明された基本政策に「稼ぐ地域」の仕組みづくりを掲げているが、ことぶきアリーナの「稼げる化」は進んでいるのか。</p> <p>(再質問)</p> <p>現在、大きな大会を開催できる施設でありながら、社会体育施設として市民を優先して貸出している。その中での施設の「稼げる化」は、至難の業と言えらると思う。思い切って民間にマネジメントを委ねる考えは無いのか。</p>	<p>【市長】</p> <p>平成 30 年度からネーミングライツを導入、現在は、寿高原食品(株)様がパートナーで、自主財源の確保に努めているところである。また、プロスポーツ等の試合の際には、こもれびテラスに出展されるキッチンカーなどから使用料をいただいている。今後も、市民の憩いの場である施設を有効活用し、「稼げる化」を推進していく。</p> <p>現在、指定管理者で運営をしており、指定管理者に創意工夫をお願いしている。</p>

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>◎議案第 8 2 号</p> <p>※質疑、討論ともになく、可決。</p>	<p>「令和 2 年度千曲市更埴文化会館施設災害復旧機械設備工事変更請負契約の締結について」</p> <p>変更前の契約金額 472,780,000 円 変更による増額 1,419,000 円 変更後の契約金額 474,199,000 円</p>
<p>◎議案第 8 3 号</p> <p>※質疑、討論ともになく、可決。</p>	<p>「令和 2 年度千曲市更埴文化会館施設災害復旧建築主体工事変更請負契約の締結について」</p> <p>変更前の契約金額 294,800,000 円 変更による増額 4,257,000 円 変更後の契約金額 299,057,000 円</p>

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>【宮下繁明議員】</p> <p>●森將軍塚古墳と条里制遺跡の重要性について</p> <p>・市長はどのように認識しているか。また一帯の景観と遺跡の保存活用について、どのように考えているか。</p>	<p>【教育部長】</p> <p>更埴条里水田址は、昭和30年代の発掘調査で、地下に眠る遺跡が当時の姿で明らかとなった点で、重要であると認識している。</p> <p>森將軍塚古墳からの眺望景観は、眼下の都市化により古代の歴史空間とは異なるが、見渡す山並みなどに基本的な違いはなく、復元された古墳とともに、当時を追体験できる貴重なものと考えている。</p> <p>一帯の景観と遺跡の保存活用ですが、遺跡そのものは地下で保存はされているが活用には至っていない。</p> <p>一方で古墳館では出土品等を展示し、発掘調査の成果を伝えるとともに、条里制の展示も行っている。こうした展示を通じて、一定の保存活用は、現在そして今後においても図られるものと考えている。</p>
<p>【倉島さやか議員】</p> <p>●伝統行事等の伝承について</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により伝統行事等の継承が困難になっているが、地域コミュニティの回復や地域活性化をどのように考えているか。</p>	<p>【教育部長】</p> <p>これまで国や市の文化財指定を受ける行事は、継承のための調査及び記録保存、用具の新調等に対する補助金の交付など支援策を講じてきた。</p> <p>ポストコロナ時代の地域の伝統行事の伝承や地域コミュニティのあり方は、まず住民同士の繋がりを大切にし、住民主体となって創り上げていくことが望ましい。</p> <p>市は地域で自主的・自立的に活動する団体が持続して活動していけるよう、引き続き地域の相談等に対し、誠実に対応していく。</p>
<p>(再質問)</p> <p>文化庁令和3年度補正予算案のメニューに「地域の伝統行事等のための伝承事業」があるが、その活用は。</p>	<p>提案の国の施策は、県からの連絡もあり、承知はしているが、どのような事業が対象となるか注視している。ただし現時点で予算成立前であり、引き続き情報収集に努めたい。</p>

【袖山廣雄議員】

●人が資源に成る、人づくりの支援策の具現化について

・森林農業体験施設となりうる「さらしなの里歴史資料館」の活用と拡充が必要と考えるが、どうか。

【教育部長】

はじめに、『さらしなの里古代体験パーク』を森林農業体験施設として、機能拡充のご提案についてである。

本年6月議会でも答弁したが、用地、財源など、様々な課題があると考えている。

また、質問の中で、自然体験、野外教育にも触れられているが、袖山議員には、これまでも、本会議の中で、「自然の中で体と五感を使う体験が大切である。」「幼少期より、自然の中で自主的に遊び、その中から思考力、判断力、表現力などが養われ、生きる力が育まれる。」など、様々な発言をしているが、私も同感である。

引き続き、限られた資源を活用した、体験的なメニューを研究していく。

最後に、「千曲子どもまんなか教育版」の作成についてであるが、現在、国において、「子ども真ん中社会の実現」に向けた動きが加速していることは報道等で承知をしている。

県内では、池田町において「子どもがまんなか」をキーワードとした教育大綱が策定されている。

市教育委員会としては、直ちに教育大綱を改定する予定はないが、「学びの主人公は子どもである」という視点に立った、教育政策、子育て政策を包括的に進めていく。